

業務達成状況報告書

1. 事業名 (対象国名)	インドネシア中部ジャワ州の幼児教育におけるインクルーシブ教育実践モデル形成事業
2. 事業実施団体名	一般社団法人こども支援チェルク
3. 事業実施期間	2017年4月3日—2019年4月30日

上位目標 (Overall Goal) カラングニャール県3郡内で実施したインクルーシブ実践モデルが、カラングニャール県内の他郡の幼稚園に普及される。	<p>1. カラングニャール県教育文化局々長は、2019年3月21日に行われた会議*において、①事業で養成されたトレーナーを活用すること、②本年度の補正予算、または、次年度予算に、人材育成事業を計上する、ことを言及した。(県教育文化局各部署の統括、CBR-DTC, CERC, JICA 東京、計18名)</p> <p>2. 県内555幼稚園を統括する幼稚園協会長の計画によれば、2019年3月に開催された研修会*を皮切りに、今後、事業対象外の郡が、CBR-DTCと協力しながら、本事業で養成されたトレーナーを活用した研修会を開く計画であると言及した。</p> <p>3. 事例：①1郡が100名を対象に、CBR-DTCと共同で研修会を4月20日に開催した。 ②事業対象幼稚園園長は、Aisyah 法人グループ主催で研修会を開催のため CBR-DTC と準備中。(法人グループ教師と近隣の希望者を含め200名)</p> <p>4. 今後、「インクルーシブ実践モデル」が広がっていくことが予想されるが、実施団体 (CERC) の適宜なサポートが必要であると考えている。</p> <p>*JICA 東京モニタリング訪問時の会議</p>
--	---

プロジェクト要約	指標	達成状況
----------	----	------

<p>プロジェクト目標 (Project Purpose) カラングニャール県3郡内の6幼稚園において、『インクルーシブ教育実践モデル』が形成される。</p> <p>※インクルーシブ教育実践モデル： 地域住民を巻き込む障害の社会モデルの浸透と、教育技術の向上と養成システムの構築</p>	<p>1. 事業対象教師12名のインクルーシブ教育の知識と理解度、実践度が「評価シート」で5段階評価の3段階以上に到達する。</p>	<p>1. 事業対象教師12名のインクルーシブ教育実践モデルの実践度</p> <p>1) 観察、評価シート、事業スタッフの検討会の結果、教師12名が3段以上に達した。</p> <p>①他の子どもと異なる子どもに対して、個に応じた教育目標と支援方法の工夫度</p> <p>②教室での子どもへのコミュニケーションにおいて、子どもが理解しやすいコミュニケーション技法を使用する度合。</p> <p>③特別なニーズを持つ子どもの達成への、承認の仕方や回数工夫点。 教師12名の到達度 (5段階評価)</p> <table border="1"> <tr> <td>Grade</td> <td>5</td> <td>4,5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> </table> <p>④特別なニーズを持つ子どもとの関係を構築するための工夫点。</p> <p>⑤研修で紹介した、多様な子どもが参加できる活動の実践度</p> <p>⑥インクルーシブ教育において教師の役割は、障がい治すことではなく、「子どもを育てる」ことへの理解度</p> <p>2) トレーナーの養成度 18名 (教師12名、園長6名) 3月18日, 19日, 20日の研修終了後、事業スタッフで検討(3段階評価)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">養成された18名トレーナー内訳</td> </tr> <tr> <td>Grade A 講演講師・実践活動講師</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>Grade A 講演講師</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>Grade A 実践活動講師</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>Grade B 講演講師</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>Grade B 実践活動講師</td> <td>6名</td> </tr> </table>	Grade	5	4,5	4	3	計	数	2	1	7	2	12	養成された18名トレーナー内訳		Grade A 講演講師・実践活動講師	3名	Grade A 講演講師	2名	Grade A 実践活動講師	2名	Grade B 講演講師	5名	Grade B 実践活動講師	6名
Grade	5	4,5	4	3	計																					
数	2	1	7	2	12																					
養成された18名トレーナー内訳																										
Grade A 講演講師・実践活動講師	3名																									
Grade A 講演講師	2名																									
Grade A 実践活動講師	2名																									
Grade B 講演講師	5名																									
Grade B 実践活動講師	6名																									

2. トレーナーによる研修を受けた、事業対象外の幼稚園教師、地域の子育て関係者のうち、約150名の理解度が5段階評価の3段階に達する。

2. 上記2回の研修会で、事業対象外156名の受講者が、**本事業のインクルーシブ教育実践モデルを理解し賛成すると応えた。**

<7項目の選択質問> (記述式は報告会で分析結果を報告予定)

- ①全ての子どもの多様なニーズ、特徴に合わせた教育を提供するべきだ。
- ②特別なニーズを持つ子どもを自分のクラスに受け入れることは問題だ。
- ③インクルーシブ教育の実践は全ての子どものためになる。
- ④教師が、誰もが楽しめる活動をクラス全員の子どものために提供することはとても大切だ。
- ⑤多様な子どもがいるクラス集団を育てることは教師にとって大切な役割だ。
- ⑥教育の発展のために、インクルーシブ教育は全ての子どもにとって有益だ。
- ⑦インクルーシブ教育実践において、個に応じて他児と異なる教育目標や結果を設定することは大切だ。

(%) (替/不替総数)

回答	割合 (%)	総数
賛成	95	1035
不賛成	2	23
どちらとも言えない	2	21
回答なし	0.9	10

アウトプット (Output)

アウトプット1: 事業対象幼稚園教師(12名)が、インクルーシブ教育の実践技術を身につける。

*ABK: スペシャルニーズを持つ子ども

1-1 事業対象教師(12名)が、本事業の多様な子どもに応じたインクルーシブ教育の技術を実践している (週1回以上)

1-1 インクルーシブ教育の技術を実践度

<本事業で求められるインクルーシブ教育の実践技術の査定項目>

- ①教師とABKとの信頼関係構築 (ABK=特別なニーズを持つ子ども)
- ②クラス内でのABK*の達成への承認
- ③教師のコミュニケーション技術
- ④多様な子どもがいるインクルーシブクラスを育む活動の実践 (絵本、社会性活動、造形、音楽ムーブ等)

<事業スタッフが幼稚園訪問した回数(全事業期間)>

幼稚園訪問 延回数 (2017年8月-2019年3月)					
郡	幼稚園名	訪問回数	延子供数	延教師	延園長
K	karanganyar公立	38	669	62	12
	Alam Anak	44	677	81	14
T	Tasikmadu公立	31	373	45	15
	Mutiara Hati	36	901	67	16
C	Tohudan	39	661	64	13
	Klodran	36	914	61	15
	Sanggir	41	752	53	12
total		265	4947	433	97

	氏名(教師)	郡	級
1	Tardini S.Pd	K	4
2	Ratna Purwaningsih S.Pd	K	3
3	Destiara Puspitasari S.Pd	K	3
4	Azkiyani Indana S.Pd	K	4.5
5	Retno Widaningsih S.Pd	T	4
6	Dwi Sri Wening	T	4
7	Fitrohtur Rosidah S.Pd	T	4
8	Murni Hastuti S.Pd(公務員)	C	5
9	Sukrisdiyatiningsih S.Pd	C	4
10	Puji Wahyuni	C	4
11	Ratna Mariana S.Pd	C	4
12	Haryati S.Pd(公務員)	C	5

※郡名 K(カラガニヤール)、T(タシクマドゥ)、C(チヨロマトゥ)

1-2 インクルーシブ教育の好事例が増え、研修会等で他幼稚園教師と好事例を共有する。

<教育技術の実践を促すためのOJT>

OJTの実施	回数	対象教師	園長参加	子供数
ファシリテーターOJT	15	20	2	256
プロマネOJT	24	31	19	461
OJTフィードバックミーティング	18	15	2	0
合計	57	68	23	717

<2018年12月 実践発表会と2019年3月18,19,20日の研修会準備のためのOJT >

研修講師としての準備そのものが良い刺激になり、事業対象の教師は、音楽・ムーブメント、リトミック、社会性ゲーム、絵本の読み聞かせ・劇遊び等の活動を自身の工夫で活用する姿が現れた。

1-2. 好事例を研修会で共有する

- 1) 教師からの、ABKの問題行動等の言及が少なくなった。その代り、子どもの変化、例えば、〇〇が出来るようになった、友達が出来た、以前より参加度が増えた、笑顔が増えた等の言及が聞かれるようになった。
- 2) ABKとの関係を構築するために教師が工夫するようになった。
- 3) 12月と3月の研修会では、トレーナーが自分自身の経験を伝えながらインクルーシブ教育における教師の役割について話をした。

<具体的な例>

- ①園長1名が、「過去には同情でABKを受け入れていたが、研修を受けて後、ABKを一人の子どもとして理解するように努力するようになった」と伝えた。
- ②園長1名は、モニタリング時のインタビューで「教師は専門的な知識と技術を持っていないから、多動なABKを受け入れるのは難しい」との言及が続いていたが、事業後半(2018年10月頃)、多動なABK2名の成長がみられるようになった頃から、考え方が肯定的に変化した。3月研修会では、講師として、「まず、ABKを受け入れる事、子どもに合った教育目標と方法を工夫すること」を参加者に強調していた。
これは、教師の工夫、子どもの成長によって、全ての人(子ども、保護者、教師、園長、事業スタッフ、地域住民、研修参加者)がエンパワーされた事例である。(年長児になったM児(男)は、3月になって女児の友達ができた。クラスの中に自分の居場所があり、幼稚園生活を楽しんでいる様子が見られた。教師も笑顔で報告してくれた)
- ③2名が、ABK、Non-ABKとの交流の場面が生じてきた様子を、ビデオで説明した。
事例1: ABKが座る場所がわからないで迷っている時に、手を差し伸べる。
事例2: 4歳児の頃には交流がなかったが、5歳児になって、交流が見られるようになった。お弁当のおかずの

アウトプット2: 事業対象幼稚園教師(12名)と園長(6名)がトレーナーとして養成され、事業対象外の幼児教育関係者に、インクルーシブ教育実践モデルを広めている。

2. Gugus 等の研修会で、トレーナーが講師になる回数が各郡 5 回以上となる。

Gugus実施回数(参加数)			
郡名	回数	延幼稚園数	延参加教師数
Karanganyar	5	36	186
Tasikmadu	7	36	224
Colomadu	2	17	53

アウトプット3: 地域住民のインクルーシブ教育の理解が向上する。

3.1 事業対象6村でのPRAの回数

交換を簡単な言葉で実現。

④1名が、他児と同じではない理由、「ABKの心の動き」を代弁し、ビデオで説明した。

例：椅子取りゲーム。他児は椅子の周りを歩いている。ABKが嬉しそうに周囲を走る。トレーナーが、「これは一緒に活動している。とても楽しんでます」と説明。日ごろの行動をから子どもの意図することを読み取る力を教師が持っていることが大切であると強調した。

⑤ 3名が、静止画を用い、年度当初は戸惑ったが、研修で学んだ「絵本の読み聞かせ」や音楽や社会性の楽しい活動を通して子どもが変化してきた様子を笑顔とともに説明した。

※Gugus：インクルーシブ教育がテーマになった回数
人数は延べ数

トレーナーの実践			
	Gugus	12月実践発表会	3月研修会
K	4回	1名	6名
T	5回	2名	5名
C	2回	3名	8名

2. 養成されたトレーナーが講師になる回数

各郡5回(5名)以上に達成した。

1) 「Gugusを活用した研修会」トレーナーとなる。

2) 12月15日 インクルーシブ教育実践発表会

座学講師：3名 ・実技指導のモデル：15名

3) 3月18,19,20日 研修会 参加者100名×3回

座学トレーナー：8名 実技研修トレーナー：8名(1名怪我、1名：家族の病気で欠席)

3-1 村民集会の回数 事業対象幼稚園の村 5村対象。前期1回、後期1回 計10回

(「他」の中に、乳児健診、婦人会メンバーが多く参加)

PRA 住民集会	前期 2017 Q2,Q3							後期 2018 Q4					
	日程	時間	村長	委員	他	etc	日程	時間	村長	委員	他	etc	
K	Bejen	9/13	10時-	1	5	29		3/21	10時-	1	3	39	
T	Ngijo	11/11	10時-	1	2	27	助産婦	2/18	10時-	1	3	43	助産婦
	Gaum	9/6	15:30	1	4	42	助産婦4、都 行政官、JICA2	2/13	15時半	1	3	45	助産婦
C	Sanggir	9/29	15:30	1	2	24	助産婦	3/21	16時-	1	4	58	助産婦
	/Paulan Tohudan	11/23	10時-	1	3	22	助産婦	2/27	16時-	1	3	36	助産婦
				5	16	144	計165			5	15	221	計241

3.2 村の乳児健診関係者（ボランティア・婦人会・保健所等）が障がいのある子どもが幼稚園に受け入れられるインクルーシブ教育に賛成する割合が 2/3 に達する。

※婦人会メンバーは全員ではないが、持ち回りで、乳児健診にボランティアとして参加する。

※乳児健診には、高齢者の健康相談も行う。

※村在住の助産師がこれらの活動の中心メンバーである。

3.3 地域において、障害のある子どもを支援する好事例が増える。

3-2 村民集会で実施したアンケートで、インクルーシブ教育の賛成者が 2/3 以上となった

※住民集会には、婦人会、乳児健診ボランティア、保健所の助産師など、村の「健康」「子育て」「福祉」「教育」等の支援者の主要メンバーが大勢参加している。住民集会のアンケート結果をもって 3-2 の指標の結果を得たとする

※下記質問紙の結果、5 村ともに幼稚園のインクルーシブ教育への賛成が 90%以上となった。

<質問紙の質問>

- ①「一般の幼稚園に ABK を受け入れることを了解する」、
- ②「我が子が ABK と遊ぶことに反対はしない」
- ③「市民として障害を持つ子どもの家族も含めて助け合う」
- ④「インクルージョンは全ての子どもに教育を受ける権利を擁護し、幼稚園、特別支援学校の幼稚部等、選択することができることである。」
- ⑤「幼稚園は多様な子どものニーズに合わせた教育を提供する」「子ども達は ABK, NonABK は学びあう」
- ⑥「幼稚園で子ども達は多様性を受け入れることを学ぶ」「子どもの力に合わせた教育目標の設定が大切」

(※家庭訪問の人数は親子の組が中心)

	事業ファシリテーター		地域活動データ				
	回	参加者	回	ボランティア数	親子	回数	人数
K郡	2	46	6	31	116	19	33
T郡	5	260	7	33	223	36	72
C郡	6	292	6	58	176	20	45

<事業スタッフのコミュニティーへの働きかけ>

- ①婦人の役割は、保健、福祉、教育など。村長夫人は婦人達の行う活動の責任者である
- ②事業 Facilitator の婦人会ミーティング・乳児健診への参加により、地域の子育て支援者との関係を作る。ABK の家庭訪問では、子ども保護者、近隣の人との関係を作る。このことで、地域住民のインクルーシブ教育への関心を促した。
- ③乳児健診は月 1 回開かれる。乳幼児は誰でも月 1 回健診の場に参加可能。小さな遊びのスペースがあり、乳児健診のボランティア、保護者、子ども、事業ファシリテーターが自然な雰囲気の中で交流する。

3-3 地域の好事例

地域において、障害のある子どもを支援する好事例が増える。(主に、事業ファシリテーターの報告)

- ①Karanganyar 郡 Bejen 村は、心臓疾患を持ち身体の成長が遅かった Andika 君を幼稚園が受け入れた事例の村である。(JICA Website のトピック参照) 村長のリーダーシップは近隣のモデルである。保健所、助産婦、婦人会など、村のキーパーソンと協力しながら、支援が必要な子ども、家族に働きかけている。本事業と協働することが何度かあったが、お互いがエンパワーされたケースである。(村長は、県から任命された公務員である。)
- ②Tasikumadu 郡の 2 村について、事業ファシリテーターが地域での活動を始めた当初は、住民が近隣の ABK を無視する、また、差別的な発言をするなどが見られた。
 - ・事業後期になると、住民から目立った排他的な行動は見られなくなったとのこと。
 - ・婦人会のメンバー、乳児健診のボランティアが ABK 本人、家族とコミュニケーションする場面がみられるようになった
 - ・乳児健診ボランティアが、ABK の母親に、健診に毎月来て子どもを他の子どもと遊ばせることを勧めるようになった。
 - ・婦人会のメンバーも ABK と直接遊び、「言葉が増えた」「〇〇ができるようになった」と、小さな変化を母親と一緒に喜ぶ姿が見られた。

<p>アウトプット4:本事業の「インクルーシブ教育実践モデル」が対象地域内において認められるとともに、情報が事業対象外に広まる</p>	<p>4.1 CERC, CBR-DTC が開催する「インクルーシブ教育実践発表会」に参加する事業対象内外の参加者数・幼稚園数。</p> <p>4.2「インクルーシブ教育実践発表会」の参加者の50%以上が、本事業の教育実践モデルは有益であると認める。</p> <p>4.3 地方行政によるインクルーシブ教育推進のための好事例が発現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ABK の母親に、乳児健診ボランティアと母親が幼児教育の場を検討した。特別支援学校幼稚部、幼稚園の可能性を考えた。近隣の母親が、ABK の母親の相談者になり、我が子と一緒に幼稚園に入園することを誘った。 <p>②Colomadu 郡では、Sanggir/Paulan 村が、インクルージョンのモデル村といえる状態である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村長夫人が、村民の「福祉、健康、教育等」を支援するリーダーの役割を担っている。 ・ 村に住む ABK の教育の充実のため、CBR-DTC に協力を要請。婦人会メンバーの家のスペース、教材費を提供。 ・ CBR-DTC はセラピスト (OT) を提供。週3日、村内の ABK の個別セラピー、集団遊びを行っている。CBR-Unit と呼ばれ、2017 年から開始された。乳児健診ボランティアがともに活動する。 ・ 上記の事業と並行して、幼稚園に入る前の小さな子ども達の「遊びの場」Pos Paud を運営。乳児健診で特に成長が心配なお子さんの保護者に他の子どもと遊ぶことを勧めている。 ・ 週3回、16時から1時間半、近隣の親子が集まり、自由遊び、自然な集団遊びを行っている。また、小学校低学年の子ども達も集まり賑やかである。運営は乳児健診のボランティアである。そのボランティアの中には、保健所助産師(公務員)、村営幼稚園の教師も含まれる。時に、CBR-Unit と Pos Paud の子ども達が共に遊ぶこともある ・ 最大の要因は、CBR-DTC と同じ村であり、コミュニケーション頻度が高いこと。過去に CBR-DTC がファンドを得て実施した障がいに関わる事業を2回行った経験がある。(20年前と5年前は JICA の事業) 障がいの受け入れる考え方に変わるには時間がかかるが、複数回の事業を行うことによって、少しずつ変わっていくことに気づかされる村である。 ・ 今回事業の存在は、ABK の支援をしている住民をエンパワーしたと言える。 <p>4-1 事業対象外の幼稚園数と教師の数(幼稚園関係者、行政、村の子育て関係者)</p> <p>1) 12月15日実践発表会： 幼稚園数：45 参加者：100名</p> <p>2) 3月18, 19, 20日研修会 17郡幼稚園：85園 参加者100名 (延べ300)</p> <p>* 12月15日開催「インクルーシブ教育実践発表会」 全100名参加者で幼稚園関係者以外の内訳</p> <p>○カラングニヤール県行政官：9名 ○スラカルタ市；6名(内1名行政官) ○乳児健診関係者：13名</p> <p>4-2 アンケート対象66名が有益であると認めた。 結果は事業目標参照。</p> <p>4-3 地方行政での「インクルーシブ教育推進のための好事例</p> <p>①2018年12月実践発表会：カラングニヤール県教育局長、幼児教育担当官、事業対象3郡の教育関係者、保健所職員、計9名が参加した。</p> <p>②カラングニヤール県幼児教育担当官(半日参加)、スラカルタ市行政の幼児教育担当官(一日参加)は、本研修会では、理論に即した実践内容があり、幼稚園教師にとって有効であることを言及した。</p> <p>③3月18日、19日、20日研修会。Karanganyar 県教育文化局と幼稚園協会が本事業と共同して3日間の研修会を開催した。会場は県教育文化局からセミナールームを無料で提供された。</p> <p>④Karanganyar 県教育文化局長が研修会の実践活動中に通りがかり、参加者に挨拶スピーチを行い、参加者が大変喜んだ。</p> <p>⑤3月20日閉会式では、局長がスピーチで、今後の研修会の継続を県が行うことを、参加者の前で言及した。</p>
---	--	--

4.4 本事業で「インクルーシブ教育実践マニュアル」を作成し、関係者に配布する幼稚園の数、子育て関係組織の数。

4-4 「インクルーシブ教育実践マニュアル」は200冊印刷。事業対象幼稚園、園長、教師に配布。3月の研修会では参加者約100名。行政関係者全員に配布した。

- ・事業対象の村、村長、婦人会リーダーに配布。
- ・今後、17郡の研修会が開催されるたびに、園長に配布する。その他はWeb閲覧を奨励
- ・マニュアルのWeb掲載：動画、カラー静止画、カラーイラストを活用し、よりわかりやすい内容にするため、4月中作成中。(教師のスマホ率は100%に近い)
- ・「TK Inklusi Karanganyar Facebook」を開設。これまでの研修会の様子、今後の研修会の様子を掲載予定である。

事業スタッフと地方行政との関係構築

県教育文化局	訪問	研修会等参加
局長	1	3
次長	7	1
幼児教育担当官	7	2
幼児教育次長	6	
幼稚園協会長*	6	3

*公務員だが行政官ではない

郡教育局	訪問	研修会等参加
Karanganyar郡	11	1
Tasikmadu郡	11	2
Colomadu郡	11	1
幼児教育監督官	12	6

<事業の継続>

- ⑥3月21日、JICA東京のモニタリングで、Karanganyar 県教育文化局長を訪問した。(2017年9月は代理だった)局長は局内関連職員を集め、今後、インクルーシブ教育推進のため、本事業トレーナーを活用する研修会を行政が行えるよう、予算計上することを言及した。
- ⑦幼稚園協会長(Tasikmadu郡公立幼稚園 Amanh 園長)は、各17郡主導で本事業トレーナーを活用する研修会開催を検討中。
- ⑧4月20日(土)「Kebakkramat郡」の幼稚園協会とCBR-DTCが共同で研修会を開催した。参加者100名、研修講師は本事業で養成したトレーナー。今後、他の郡が続く可能性がある。
- ⑨事業対象幼稚園 Aisyiyah Mutiara Hati 幼稚園園長が主導する企画で、Aisyiyahグループが参加者200名、3日間の研修会をCBR-DTCと共同で開催予定。

<CBR-DTC と行政の関係>

- ①過去にCBR-DTCは行政と関係を作りながら、外部からのグラントにより、障がいのある人、子ども、家族の支援を地域ベースで事業を行ってきた。本事業では、CBR-DTCにとっては初経験の「幼児教育のインクルーシブ教育の事業」であった。この経験を通して、幼児教育関係者(カンガニャル県、スラカルタ市など)とのネットワークができた。
- ②幼児教育担当官、Mr. Sularnoとは、何度も会うことで、連携関係ができた。本年、Kranganyar 県は「子ども・女性エンパワーメント省」が主催するコンテスト「Child friendly City/District Contest」にエントリーする予定であり、提出の一部に「インクルーシブ教育の実践」を内容を含む予定。本件に関して、CBR-DTCに協力要請をした。
- ③幼児教育担当官は、2019年9月の補正予算を議会に提出する機会に、「インクルーシブ教育の研修会」を行うべく予算計上を考えている。研修会を開催する時にはCBR-DTCに協力を求めることとなる予定である。

